



# 第3次 山田学区まちづくり計画

令和7年度（2025年度）～令和11年度（2029年度）



令和7年4月  
山田学区まちづくり協議会

## もくじ -Outline-

1	はじめに	②
	(1) まちづくり協議会の位置づけ	
	(2) 計画改定の趣旨	
2	計画の概要	③
	(1) 計画の目的	
	(2) 計画の位置づけ	
	(3) 計画の期間	
	(4) 計画の範囲	
	(5) 他の計画との関係	
3	地域の現状と課題	④
4	地域の将来像（めざす姿）	⑤
5	基本方針	⑤
6	事業計画	⑦
	(1) 住み続けたいまちづくり	
	(2) 健幸なまちづくり	
	(3) ふれあいのあるまちづくり	
	(4) まちづくりのための協議会	
	(5) 新センターの活用に向けて	
7	資料編	⑭
	◆ 山田学区まちづくりアンケート	
	◆ 草津市協働のまちづくり条例	
	◆ 山田学区の位置と町内	
	◆ 草津市内の学区別人口と高齢者割合	
	◆ 山田学区の世代別人口と高齢者割合の推移	
	◆ (新)山田まちづくりセンター（フロア図）	
	◆ まちづくり計画 策定の経過	

# 1 はじめに

## (1) まちづくり協議会の位置づけ

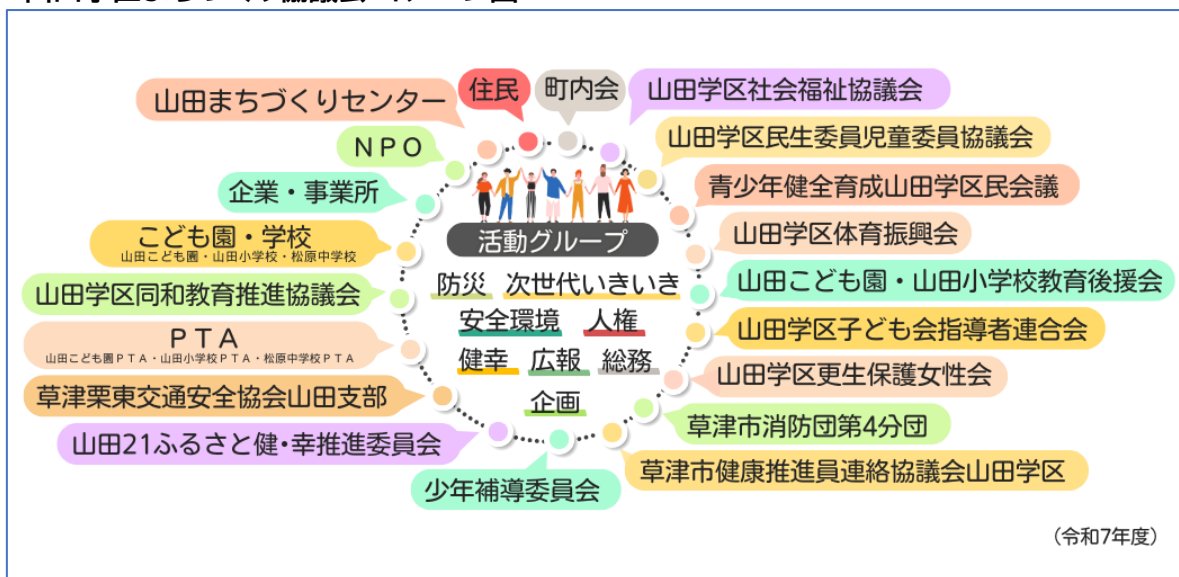
山田学区では「自分たちの地域は自分たちでつくる」という考えのもと、防災をはじめ防犯・環境・青少年の健全育成などにかかる地域課題の具体的な解消・解決を目指して取り組むため、平成 24 年 3 月 24 日に、山田学区まちづくり協議会(以下「まちづくり協議会」という。)を設立しました。

また、まちづくり協議会は「草津市協働のまちづくり条例」に基づき「地域を代表する総合的な自治組織」として、平成 26 年 8 月 11 日に草津市から認定を受けました。

P15 参照

まちづくり協議会は、すべての地域住民や各種団体等の創意を結集して設立され、山田学区のまちづくりを進めています。

山田学区まちづくり協議会 イメージ図



## (2) 計画改定の趣旨

「草津市協働のまちづくり条例」に基づき、「山田学区まちづくり計画」(以下「計画」という。)を策定し、山田学区のまちづくりを計画的に進めています。令和 6 年度で第 2 次まちづくり計画の期間が満了となります。

今回、地域や私たちの暮らしを取り巻く環境が変化しており、それらの新たな課題に対応するため、また、令和 8 年度に新しくできる「山田まちづくりセンター」の有効な活用も見すえ、計画を見直しました。

## 2 計画の概要

### (1)計画の目的

この計画は、まちづくり協議会が山田学区に暮らす皆さんや地域で活動する団体等による協力や連携のもと、高齢化する地域社会を踏まえた複雑多様な地域課題に対応し、住みよいまちづくりを進めていくための行動指針として策定します。

P15 参照

### (2)計画の位置づけ

まちづくり協議会は、草津市と協働して今後も住み続けたい山田のまちをつくるため、地域の将来像(めざす姿)を定め、まちづくりの基本方針に基づきこの計画をもとに、よりよいまちづくりを展開していきます。

### (3)計画の期間

この計画の期間は、令和7年度(2025年度)から令和11年度(2029年度)までの5年間とします。

ただし、令和8年度に竣工する新センターの新たな機能等に対応するため、事業計画やまちづくり協議会の組織について見直しを行います。

P17 参照

●	第1次	平成25年度	～	令和元年度
	第2次	令和2年度	～	令和6年度
	第3次	令和7年度	～	令和11年度

### (4)計画の範囲

この計画は、地域にとって身近な生活圏域である山田小学校区を対象とし、まちづくり協議会を構成する各町内会、各種の団体・個人・企業等が、主体的に取り組める内容を範囲とします。

### (5)他の計画との関係

この計画の推進にあたり、山田学区で既に策定された右の計画との整合を図るものとします。

- ・山田学区まちづくりプラン  
(草津市版地域再生計画)
- ・山田学区地区防災計画
- ・山田学区住民福祉活動計画 等

### 3 地域の現状と課題

山田学区は草津市の西部に位置し、西側は琵琶湖に面しています。古くから水田が広がり、旧草津川の河口付近では肥沃豊かな土地に恵まれた都市近郊型の近畿最大級のビニールハウス群が広がる大規模な畑作地帯となっていて、草津のメロンや愛彩菜等の旬の野菜や果物が出荷されています。



地域面積が 632 ヘクタールと、草津市の面積の約 13%を占めており、その 8 割以上が市街化調整区域の田園地域となっています。地域の東側を走る大津湖南幹線の道路沿いには様々な商業施設が立地しており、また平成 29 年には旧草津川の跡地を活用した「ai 彩ひろば」が整備され、休日には多くの人たちで賑わいます。

人口は、7,765 人、世帯数は 3,512 世帯※となっていますが、高齢者割合は 30.6%と市内で 2 番目に高く、少子高齢化が進む地域となっています。 P16 参照

日々の生活を過ごす上で欠かすことのできない医療施設、商業施設、公共交通なども十分とは言えず、車の運転ができない高齢者や子どもにとっては不便を感じる場合があります。

少子高齢化による独り暮らしや高齢世帯の増加、地域の活動を担う人材の不足などが言われており、地域コミュニティの希薄化などもあいまって、ご近所、町内、学区での活力の低下が心配されています。



また、地域には木造家屋が密集しているところや狭隘道路も見受けられ、地震や火災の際の被害が甚大となることも予測され、災害時の対応は地域の大きな課題となっています。

※ 人口、世帯数、高齢者割合は令和 6 年 12 月末時点「草津市学区別・地区別年齢別男女別人口一覧表」より  
(住民基本台帳人口・外国人含む)



## 4 地域の将来像（めざす姿）

笑顔のまち 住みよいまち やまだ



## 5 基本方針

### (1)住み続けたいまちづくり

地域資源を活用し、環境に配慮した安全・安心して生活ができるまちづくり

（活動例）

地区防災計画の見直し・学区防災訓練の実施  
防犯広報活動・交通安全活動・防犯パトロール  
子どもの見守り活動・田園風景の保全

### (2)健幸なまちづくり

健康への理解を深め、いきがいを持ってすこやかな暮らしができるまちづくり

（活動例）

健康推進事業の実施・緊急避難時の要支援者への支援対応  
スポーツの啓発・健康ウォーク

### (3)ふれあいのあるまちづくり

若者や子どもの生きる力を育み、一人ひとりのふれあいがあるまちづくり

（活動例）

地域協働合校の推進・学区人権学習の推進  
地域住民のふれあい機会の創造・ふれあいイベント

## (4)まちづくりのための協議会

山田の魅力を発掘し、情報発信を行い多様な人の参加を促進するまちづくり

(活動例)

まちづくり協議会の情報発信・共有

まちづくり協議会の組織の機能強化、人材養成

各種団体・各町内会との連携強化

まちづくりセンターの管理運営 ・ 未来ビジョンの具現化

地域資源の発掘・見直し

## (5)新センターの活用に向けて

コミュニティや防災の拠点として新センターを活用したまちづくり

(活動例)

新センターの整備内容の検討

新センターの活用方法の検討

新センター周辺の拠点形成の推進

販売許可付キッチンの有効活用の推進



新センターのオープンスペース（パース図）

## 6 事業計画

### (1) 住み続けたいまちづくり

安 心	●災害リスクの極小化	
	災害予防（地震、水害、台風、火災等の大規模災害に向けた減災対策）	
	地区防災計画の評価・見直し	防災訓練による防災計画の検証と見直し
	市防災計画との連携強化	災害時の活動計画、役割分担、避難計画、ライフライン計画
	●意識の向上	
	防災教育（個人の安全に対する知識と行動）	
	防災員の養成	防災員養成講座の受講推進
安 全	●被災後対策	
	防災教育（個人の安全に対する知識と行動）	
	町内会及び学区の防災訓練の実施	防災訓練での地区防災計画の実践
	●防犯	
	自らを守る意識の啓発	
	地域の防犯パトロール活動	防犯パトロールの実施
子どもの見守り活動	登下校時などの見守り活動 (防犯ブザー、子ども110番旗の設置)	
高齢者世帯への個別訪問	振込め詐欺、暮らしのトラブル情報などの注意喚起の案内	
防犯広報活動	防犯教室、防犯キャンペーン、防犯監視活動など	



安全	●交通安全	
	交通安全教育	
	交通安全教育活動	交通安全教室、交通安全キャンペーンなど
	交通安全活動	
環境	交通安全点検活動	通学路、生活道路の安全確保、道路の安全点検とその対策
	●美しいまち（将来の世代へ引き継ぐための取り組み）	
	自然環境保全	
	田園風景の保全	ふるさと環境の維持・水辺と緑の整備 生物多様性の保全
	景観づくり活動の支援	住宅や周辺地域の緑化
	地域の環境を守る取り組み	
	環境対策の啓発・普及・促進	環境活動の学習・環境イベント等に参加
省エネ啓発	地球冷やし隊の取組への参画	



▲防災訓練 無線機を使った情報伝達



▲民生委員児童委員協議会のあいさつ運動

## (2) 健幸なまちづくり

福祉	●地域の支え合い	
	緊急避難時の要支援者への支援対応	
	地域の支援体制づくり	福祉防災マップの作成・更新
	独居老人・高齢者世帯	
	見守りの体制づくり	高齢者安心ガイドブックの活用
健幸	●「健幸宣言」の推進	
	健康推進事業の実施	
	健幸宣言① 健康への理解	健康意識の高揚のための計画的な勉強会、講習会
	健幸宣言② 生活習慣	健康づくりのための生活習慣の改善に向けての啓発活動
	健幸宣言③ 健康管理	健康診断の大切さを伝え、自分自身の健康管理を推奨
	健幸宣言④ 食生活	カロリー等、バランスのとれた食生活の啓発活動
体育	●スポーツ推進	
	スポーツの啓発	
	健幸宣言⑤ 運動習慣	スポーツ、体育の大切さを啓発する
	やまだウォークの実施	健康づくりにウォーキングの推奨



▲山田ウォーク

### (3) ふれあいのあるまちづくり

次世代育成	●地域協働合校	
	地域で子どもが育つまちづくり（子どもと大人が共に参加できる機会の創造）	
	アドベンチャーハウスの実施 （中高大生の企画イベント）	子どもたちのリーダーシップ育成
	子ども参加のイベント	子ども育成、食育、料理、工作など
人権	●人権学習	
	従来からの同和教育推進協議会との協働	
	人権研修の実施	体系的な研修
	町内学習懇談会の開催	各町単位で実施
	館外研修の実施	先進的な取り組み等を研修
コミュニケーション	●ふれあい	
	地域住民のふれあいの機会の創造	
	ふれあいイベント	地域の住民、参加者同士の親睦と文化活動などのふれあいの場の提供
	●人の輪と広がり	
	交流する場の提供	
	まちづくりセンターの利用促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やまだの日(市)企画</li> <li>・食マネジメントの展開</li> <li>・若い主婦が立ち寄りやすいセンター</li> <li>・野菜、果物のフリーマーケット形態の販売</li> </ul>

#### (4) まちづくりのための協議会

広 報	●情報の発信・共有	
	協議会のことを知って理解してもらう。 住民の声を聞き、まちづくりを充実させる。	
	まちづくり通信「やまだ」の発行	活動状況やお知らせを全戸配布で周知
	ホームページの運営・管理	掲示板機能と情報データベースを構成
	LINE による情報発信	有効でタイムリーな発信
組 織 の 活 性 化	●人材育成	
	協議会を担う人材養成 協議会組織の機能強化	
	勉強会・講習会の開催	館外研修の実施
	●組織交流	
	市行政各機関との連携・協議を密にする。	
	行政機関との連携	まちづくりトークやテーマ別意見交換会の実施
	各種団体との連携強化	
	各種団体との連携強化	各種団体による協議会活動の展開
●地域力の向上		
地元から理解と協力をしてもらえる協議会		
各町内会との連携	各町内会と協議会との関係強化の取り組み	

運 営	●運営管理	
	協議会の運営	
	協議会の全般業務	協議会活動全般の運営とその評価および改善
	●センターの管理	
まちづくりセンターの指定管理の運営		
	地域まちづくりセンターの管理運営	運営状況の把握と管理
企 画	●まちづくり	
	山田の未来ビジョンの具現化	
	ヤマミラ	活気あふれる山田まちづくりを模索・提案
	未来(あす)の山田を考える会	学区課題の解決策の検討・協議
●地域活性化		
地域資源の発掘と見直し		
	大学生・地域住民とのコラボ	新しい特産品の創造



▲メロンを使ったクラフトビール(左)とシャーベット(右)



やまだメロンまつり▲



## (5) 新センターの活用に向けて

企 画	●新センターへの移行	
	新センターの整備内容・活用方針検討	
	新センターの設備内容検討	新センターに必要な設備内容の検討
	新センターの活用方法検討	センター機能の充実
運 営	●新センターの運営	
	新センターおよび周辺の活用検討	
	新センターの活用	学区住民・団体の積極的な活用
	販売許可付キッチンの有効活用についての検討推進	山田の資源活用や課題解決のためのコミュニティビジネスの推進
	新センター周辺の拠点形成の推進	周辺地域の活性化

▶ 段ボール迷路  
(アドベンチャーハウス)



◀ 秋まつり



▲ 絵の具巾着づくり (愛彩菜の絵の具)



▲ かまどトーク



## 7 資料編

アンケート結果の詳細は協議  
会 HP にて公開しています



### ◆山田学区まちづくりアンケート

このアンケート調査は、まちづくり計画の改定にあたり地域住民と山田学区に関わりのある方を対象に、地域への思いやご意見をお伺いし計画検討の一助とさせていただくことを目的に実施したものです。

協議会の公式 LINE 上で令和 6 年 10 月に実施し、52 名の方より回答をいただきました。

また、このアンケート以外に「新センター建設にかかるアンケート」など、これまでに実施してきたアンケート調査などでのご意見も、まちづくり計画策定の参考とさせていただきました。

#### <主な調査項目>

- 山田の地域で「気に入っている」「誇りに思う」こと
- 山田の地域で暮らす上での不安や心配ごと
- 今後の地域活動において幅広い世代の参加を増やすための工夫について

### ■調査結果（抜粋）

#### ○山田の地域で「気に入っている」「誇りに思う」こと

[豊かな自然環境がある(34 件)][水害などの災害リスクが低い(31 件)][農業がさかん(24 件)]を選択する方が多く、[公共交通機関が便利]を選択する方はいませんでした。

#### ○地域で暮らす上での不安や心配

暮らしの課題となる事項(7テーマ・選択方式)では[気軽な移動手段・公共交通の確保(39 件)]が最も多く、次いで[休耕地や空き地を有効活用する取り組み(35 件)][店舗・病院・交通など生活に役立つ情報(35 件)／不審者や危険個所などの防犯・防災情報(各 35 件)]が多くなっています。

#### ○今後の地域活動において幅広い世代の参加を増やすための工夫について

自由記述方式で 25 名の方に回答いただき、【地域活動での新しい取り組みの必要性】【若い世代が参加しやすい交流イベントの拡充】などに関する提案をいただきました。

## ◆草津市協働のまちづくり条例（抜粋）

### 第2条第1項(3)「まちづくり協議会の定義」

基礎的コミュニティ等を中心とし、概ね小学校区(以下「区域」という。)を範囲として設置される区域を代表する総合的な自治組織であって、第11条第1項で認定されたものをいう。

### 第16条第1項「地域まちづくり計画の策定」

まちづくり協議会は、自分たちの住む区域を住み良いまちとするために、目指す将来像を掲げるとともに、それを実現するため解決すべき課題およびその解決方法を示した計画(以下「地域まちづくり計画」という。)を策定するものとする。

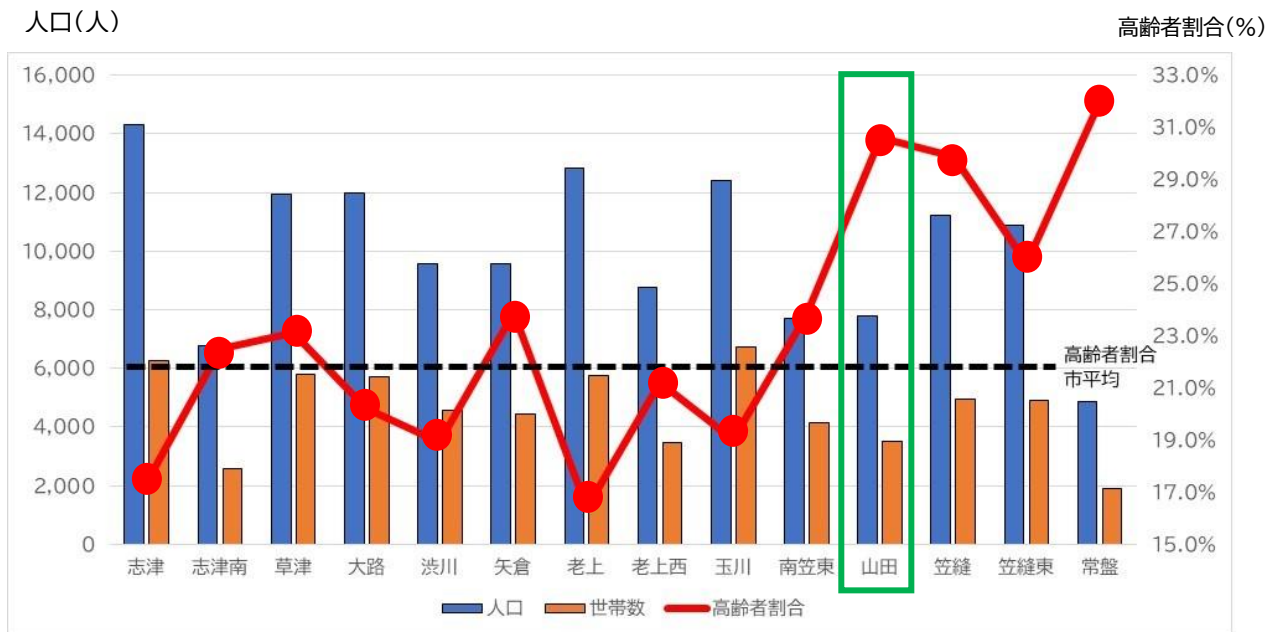
## ◆山田学区の位置と町内



※赤文字:住所表示町名 緑文字:町内名

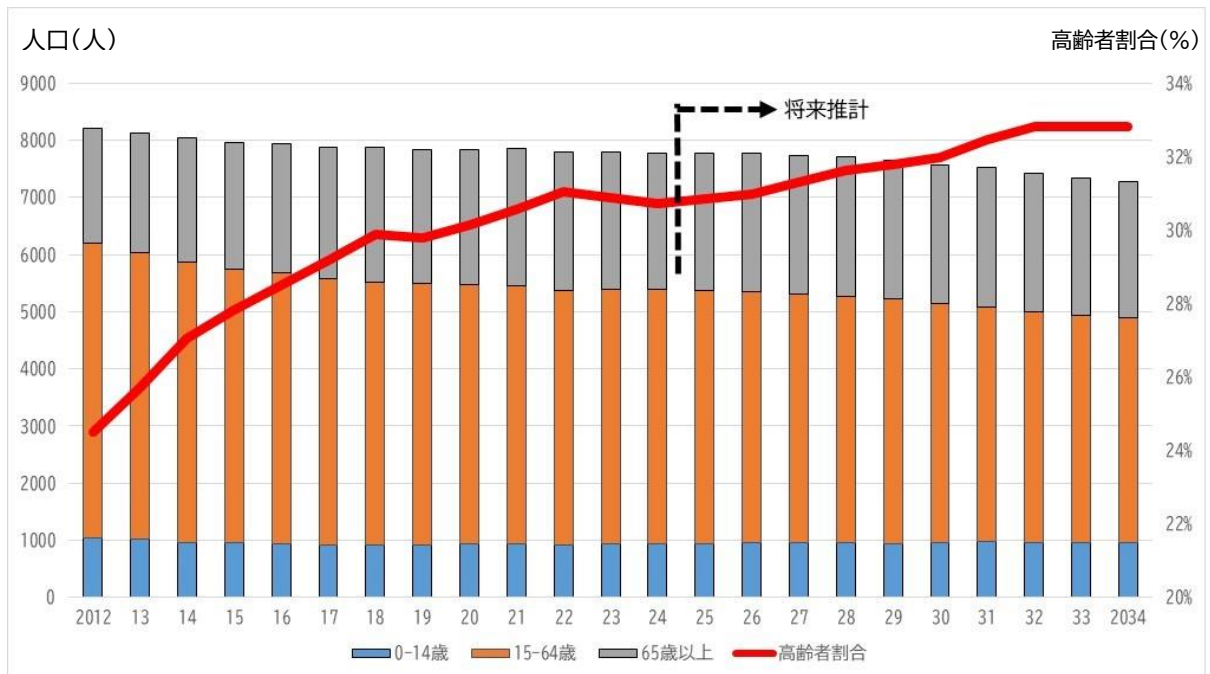
※山田学区社会福祉協議会 HP より

### ◆草津市内の学区別人口と高齢者割合



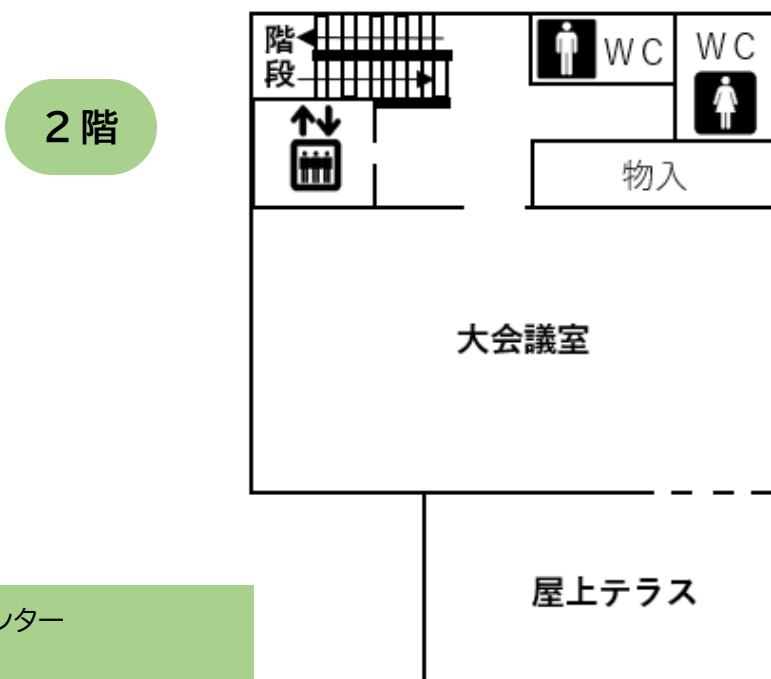
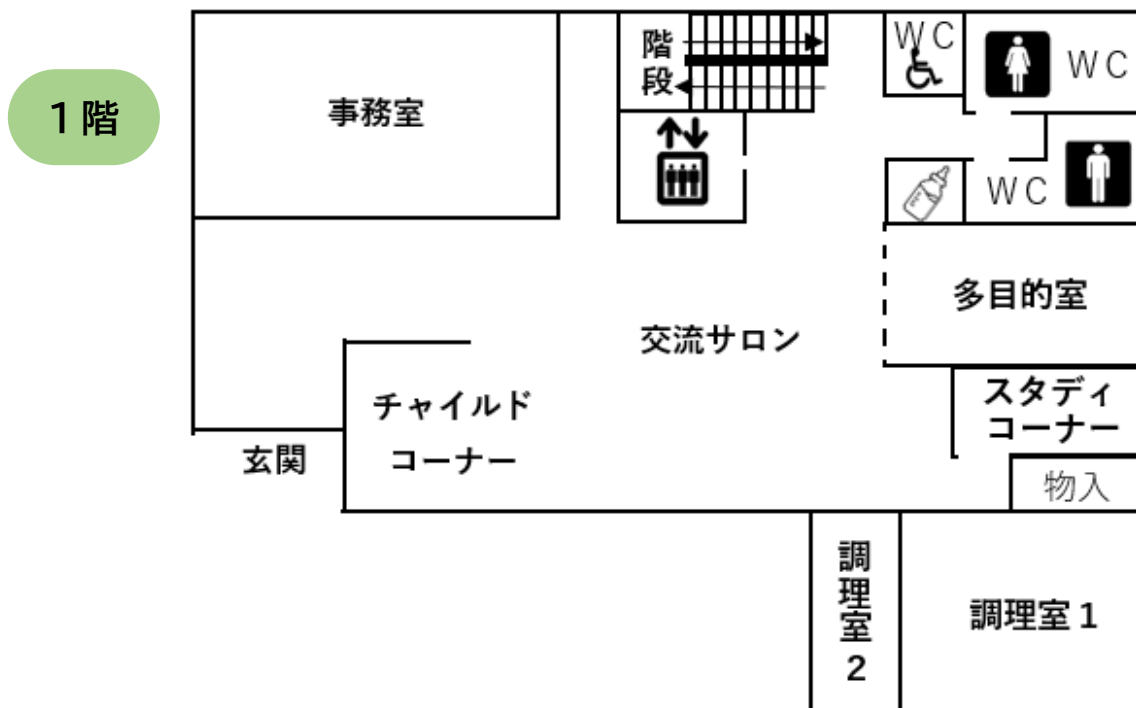
住民基本台帳(令和6年12月31日時点)  
草津市HP「学区別地区別人口」より

### ◆山田学区の世代別人口と高齢者割合の推移



2024年までは草津市「学区別・地区別年齢別人口」より。  
2025年以降は草津市「将来推計人口(男女別、年齢別、学区別)」(令和6年度実施)より。  
※どちらも草津市提供

◆(新) 山田まちづくりセンター (フロア図)



(新)山田まちづくりセンター  
〒525-0061  
滋賀県草津市北山田町 70 番地 7

◆まちづくり計画 策定の経過

【総務委員会での検討】

令和6年8月7日(水)から令和7年3月5日(水)まで月1回開催（計8回）

<委員構成>

令和7年3月時点

総務委員会 顧問	山本克実	山田学区まちづくり協議会 会長
総務委員会 委員長	山本 薫	山田学区まちづくり協議会 副会長
総務委員会 委員	堀井繁基	山田学区まちづくり協議会 副会長
総務委員会 委員	吉岡孝治	山田学区まちづくり協議会 副会長
総務委員会 委員	馬場敏彦	山田学区まちづくり協議会 理事・会計
総務委員会 委員	杉江太郎	山田学区まちづくり協議会 理事
総務委員会 委員	清水清之	山田学区まちづくり協議会 理事
総務委員会 委員	奥 健次	山田学区まちづくり協議会 理事
総務委員会 委員	堀井信市	山田学区まちづくり協議会 理事
事務局	林 伸明	山田学区まちづくり協議会 事務局長
中間支援組織	茶木修一	(公財)草津市コミュニティ事業団
	馬場和一	(公財)草津市コミュニティ事業団
	栗田真理子	(公財)草津市コミュニティ事業団

【まちづくりアンケートの実施】

令和6年10月 公式LINEでの通知/フォームでの回答

P14 参照



### 第3次 山田学区まちづくり計画 2025-2029

---

山田学区まちづくり協議会

〒525-0063

滋賀県草津市南山田町 678 番地

(草津市立山田まちづくりセンター内)

電話/ファックス 077-562-0044

メール [yamada@machikyou.jp](mailto:yamada@machikyou.jp)

URL <https://kusatsu-yamada.jp>



※(新センター) 草津市北山田町 70 番地 7